

[成果情報名] 施設栽培カンキツ「麗紅」の裂果しにくい果実を摘果期に予測する方法

[要約] 施設栽培「麗紅」の幼果期に果形指数が高い扁平な果実は、その後裂果しやすいことから、摘果時にできるだけ果形指数が低い腰高の果実を残すことにより裂果の軽減が図れる。また、摘果時に腰高の果実を残しても収穫時点では必ずしも腰高の果実とはならない。

[キーワード] カンキツ、麗紅、裂果、果形指数

[担当] 長崎果樹試・生産技術科

[連絡先] 0957-55-8740 電子メール s26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

「麗紅」は外観が美麗で果実品質も優れた品種であるが、施設栽培すると果皮が非常に薄くなり、生育期に著しい裂果を生じることがあり、生産上の大きな課題となっている。事前に裂果しやすい果実がわかれば、摘果することにより裂果を低減できることから、その方法について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 裂果の発生は満開 170日後にあたる 9月中旬が最も多く、10月下旬でほぼ終了する(図1)。
2. 満開62日後及び80日後ともその時点の果実横径及び縦径と裂果率及び満開後日数との間に一定の傾向は認められず、幼果期の果実の大きさから裂果を予測することは難しい(表1)。
3. 満開62日後及び80日後の果形指数とその後の裂果率には一定の傾向が認められ、果形指数が高いほど裂果率も高い。
4. 満開80日後と成熟期の果形指数には高い相関は認められない(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 夏秋季の急激な土壌水分の変化は裂果を助長するので、かん水する場合は少量多かん水とする。

[具体的データ]



写真1 「麗紅」の裂果

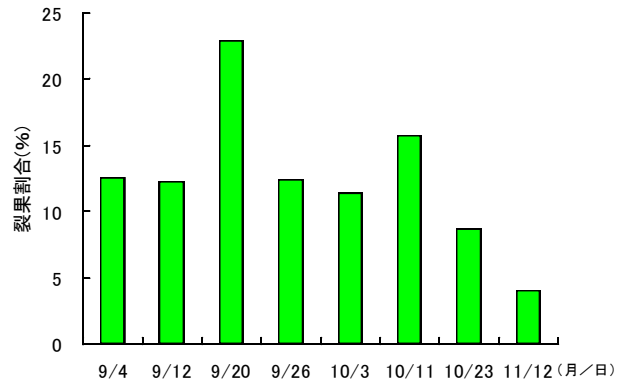


図1 「麗紅」の時期別裂果割合

表1 「麗紅」の幼果期の果実形質と裂果率及び裂果時の満開後日数

		満開62日後		満開80日後	
		裂果率 (%)	満開後日数 (日)	裂果率 (%)	満開後日数 (日)
果実横径 (mm)	10~15	34.8	181	—	—
	15~20	41.1	178	41.2	177
	20~25	44.1	185	46.3	179
	25~30	20.0	166	36.5	184
	30~			45.2	180
果実縦径 (mm)	~10	22.7	176	50.0	180
	10~15	46.9	179	42.6	178
	15~20	41.0	185	41.9	183
	20~25	26.3	168	41.9	181
	25~			20.0	166
果形指数	~100	0.0	—	0.0	—
	100~110	16.7	173	23.1	175
	110~120	39.7	179	44.3	181
	120~130	45.2	180	48.3	182
	130~140	44.4	186	52.6	181
	140~	42.9	176	—	—

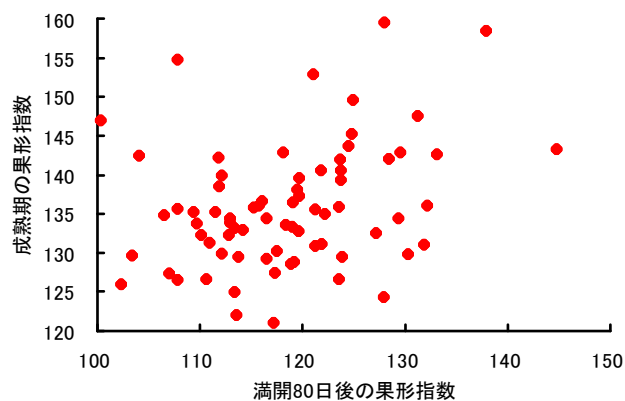


図2 「麗紅」の満開80日後と成熟期の果形指数の関係

[その他]

研究課題名：機能性に富む中晩生カンキツの高品質果安定生産技術の確立
 予算区分：県単
 研究期間：2004~2008年度
 研究担当者：林田誠剛